

オオヒカゲとの初の出会いは北海道南富良野の布礼別川林道。オオイチモンジとの出会いを求めて、2000年7月11日-15日の4泊5日、レンタカー利用の蝶探索旅行を企画。7/12に銀泉台から層雲峡方面へともどる大雪湖周辺で、予期していなかった複数のオオイチモンジが飛ぶ。その後石北峠、丸瀬布でもオオイチモンジをみる事ができて、最終15日に1999年7月8日にオオイチモンジを楽しんだ布礼別川林道へと入る。以下、当時の蝶紀行から抜粋。

白い砂利道のみなれた道を奥へと進むと、昨年と同じ林道入り口の湿地帯におびただしい数のコムラサキが吸水している情景が目に入る。オオイチモンジは1頭もいない。エゾスジグロシロチョウとルリシジミがそれぞれ同じチョウ同志で集団を形成している。数ではコムラサキが圧倒しているのに、1箇所にはびっしりより添うような集団とはならず、至るところで歩き回りながら吸水し、優雅な滑翔も展開している。種によって集団化するものとしめないもの、その差はなんだろうか。いずれにしても壮観である。澄んだ黄色が美しいキアゲハも仲間意識が強いのか複数頭が路面で吸水していて、いっせいに飛び立つ。3頭が斜め縦に並ぶように配置したときの見事な映像を Video のファインダーにとらえていながら録画スイッチも押さずに見とれてしまう。この林道ではオオヒカゲの新鮮体があらわれて初めてのネットイン。オスの特徴である後翅基部の銀白色の毛並みが美しい。妻は本来チョウ目的で北海道までやってきたのだからもう少しねばってみたら、と気をつけてくれるが、結局、本命のオオイチモンジには出会えず。



July 15, 2000 布礼別川林道  
オオヒカゲ

表面

オオヒカゲは1979年から1993年まで兵庫県にも記録があるが、その後絶滅した可能性が高いと思われ、その自然状態での撮影記録機会もきわめて少ない。唯一の記録を過去の DigitalVideo 撮影記録から取り出したのが右の図で、札幌の岡田さんに案内していただいた月形町のキベリタテハ産地で、路傍のオオイタドリだと思われる太い茎に止まっているオオヒカゲである。かなり離れた位置からの撮影のためフォーカスが甘く、いずれもっときれいな記録を撮りたいと考えていた。その機会を得たのが2015年8月2日。蝶友からゴマシジミの撮影に行こうと誘われて訪れた朝露でぬれる岡山の高原草地で、予期していなかったオオヒカゲが飛び出してびっくり。撮影できる態勢でとまってくれるまでビデオカメラで追跡し、ようやくまずまずの映像記録をとる。その翅表は飛翔中のビデオ撮影記録でしかみられない。



Sep. 2, 2000 北海道月形町



2015/08/02  
5:58



2015/08/02  
6:39